

平成26年度病害虫発生予察情報 特 殊 報 第 1 号

平成26年11月26日
岩手県病害虫防除所

プラタナスグンバイの発生について

1. 発生状況

- (1) 平成26年4月、盛岡市内の街路樹のプラタナスの樹皮下において、越冬したグンバイムシ類成虫が確認された。9月には葉裏で成幼虫の多数の寄生が認められ、葉が白化する被害が発生した。
- (2) 農林水産省横浜植物防疫所に樹皮下で越冬していたグンバイムシ類の同定を依頼したところ、プラタナスグンバイ(*Corythucha ciliata*(Say))であることが確認された。
- (3) 本種は北米原産で、近年、ヨーロッパ、アジア等に分布を拡大している。我が国では平成13年に愛知県名古屋市で初めて確認され、現在までに18都府県で発生が確認されている。

2. 形態と生態

- (1) 成虫は体長が3.5～3.7mm程度で、軍配に似た形をしている。背面から見ると全体的に乳白色であり、前翅のやや前方中央より一対の明瞭な黒褐色紋がある(図1)。
- (2) 本種は国内では年3世代を繰り返すとされ、成虫がプラタナスの樹皮下で越冬する(図2)。
- (3) 成虫、幼虫とも葉裏に寄生し、吸汁により葉表に白いかすり状の脱色斑点が生じる。寄生が多い場合には葉の基部の葉脈に沿った部分から白化し、葉裏には黒色粘液状の排泄物による汚れが見られる(図3)。被害が激しいと樹全体の葉が白化するので(図4)、街路樹などでは景観が著しく損なわれる



図1 プラタナスグンバイ (成虫)



図2 樹皮下で越冬したプラタナスグンバイ



図3 葉裏の排泄物による汚れ



図4 プラタナス葉の白化

3. 防除対策

(1) 本種の発生が認められた被害葉は直ちに除去し、処分する。

(2) 薬剤防除を行う場合は、登録のある農薬を使用する(表1)。なお、市街地、住宅地で薬剤散布を行う場合は、薬剤が飛散しないように十分に注意する。

表1 プラタナスグンバイの防除薬剤

薬剤名	希釈倍数・使用量	使用方法	使用時期	使用回数	散布液量
アトラック液剤	-	樹幹注入	新葉展開後	3回以内	胸高直径(樹幹部)6~10cm: 30ml、11~15cm: 60ml、16~20cm: 90ml、21~25cm: 120ml、26~30cm: 180ml、30cm以上は胸高直径が5cm増すごとに30~60mlを増量する。
オルトランカプセル	幹周囲10cmごとに1個	樹幹打ち込み	発生期直前	2回以内	-
スミチオン乳剤※	1000倍	散布	-	6回以内	200~700L/10a
マツグリーン液剤2	250倍	散布	発生初期	5回以内	200~700L/10a
	50倍	樹幹注入	春季~秋季	1回	胸高直径20cm未満は800ml、20~30cm未満は1,000~1,200ml、30~40cm未満は1,400~1,600ml、40~50cm未満は2,200~3,400ml、50~60cm未満は3,400~5,200ml、60cm以上は直径4cm増すごとに200mlを順次増量する

※ 樹木類 グンバイムシ類での登録

【情報のお問い合わせは病害虫防除所まで】 TEL 0197(68)4427 FAX0197 (68)4316

☆この情報は、いわてアグリベンチャーネットでもご覧いただけます。

アドレス <http://i-agri.net/agri/>

本情報に掲載した登録農薬に関する情報は、平成26年11月5日現在の内容に基づいています。

農薬使用の際には (1)使用基準の遵守 (2)飛散防止 (3)防除実績の記帳 を徹底しましょう